在京白聖会報

第15号
平成15年10月4日
発行
在京白聖会

〒101-0025 東京都千代田区
神田佐久間町1-11
産報佐久間ビル
産報出版（株）内
TEL&FAX（03）3254-9301
http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm

この重く悲しい足取りはどこへ向かうのか

～創始者が語る猛者踊り（土人踊り）の時代背景～

特別座談会

第50回NHK杯全国放送コンテスト・テレビドキュメント部門で、今年、盛岡一高が応援歌練習と猛者踊り（土人踊り）をテーマとした「新入生の七週間」で準優勝に輝き、母校が再び全国から注目を浴びています。その"土人踊り"は差別問題など数々の論議を巻き起こしながら今日まで続く伝統行事となっているものの、そのルーツは多くのOB、在校生にとって「なぞ」でした。そこで今回、創始メンバーに集まっていただき、当時の貴重なお話をお伺いいたしました。

初代酋長・田村喜八先輩の勇姿（写真：本人提供）

白石（司会） 今日はお忙しいところありがとうございます。41年卒の応援団長をやっていました白石です。今日は、我々にとっても大きな謎であった、運動会の伝統行事、土人踊りの起源について田村先輩、竹原先輩らにお話をお伺いしたいと思います。若手からもぜひ貴重なお話をお伺いしたいということでオブザーバーとして参加していただいていますが、最初に竹原先輩からお願いいたします。

3校統合の運動会に企画

竹原 創始者の一人ということでここ何年か私のところに話を聞きたいとか、いろいろきておりましたけれども、その頃盛岡を離れ仙台にいたので断ってきました。しかし、そうこうするうちに土人踊りがだんだんおかしくなってきた。私など伝統とは全然思っていなかった。私ら一代で終わりだと、そういう感じです。今まで続くなんて思ってもいなかった。そもそもの発端は、ちょうど私らのときに3校合併があり、そこで私ら上田

（※以下、次ページに続く）

募集！

①「第1回在京白聖会ゴルフ大会」参加者募集！
②「在京白聖会35年の歩み」記念誌原稿募集！
（共に第4面に詳細）

記念講演、コンサートと賑やかに開催

第34回在京白聖会総会レポート

第34回在京白聖会総会が昨年同様5月10日（土）、「アルカディア市ヶ谷」で開催されました。午後4時から恩師・遊座昭吾先生の「白亜の肖像 啄木・賢治」と題する記念講演を開催。その熱弁は出席者を魅了しました。

在京白聖会で講演する遊座昭吾先生

会場を移しての総会では、議事の前に46年卒の声楽家、生平祐司君のサロン・コンサート。会場の周りに貼られた「岩手山」や「北上川」の写真（"ぼっこスタジオ"）

会場の周りには岩手山や北上川の写真が飾られ、望郷の念にかられた人も多かった

伊東隆君提供）に囲まれて歌う「初恋」「ます」等の歌唱に、故郷へ思いをはせた人も多かったようです。

議事終了後の懇親会では、46年卒の同窓生が41歳の時に作ったエレキバンド"フォーティ・ワンズ"が演奏。青春時代のグループサウンズ曲を弾き始めると、会場のあちこちから歌声が湧き上がり、「青い山脈」では、大合唱となりました。

その後、校歌・応援歌斉唱、エールと、あっという間に懇親会は終了。来年の再会を誓い、散会いたしました。（46卒）

46年卒の同窓生バンド"フォーティ・ワンズ"の演奏（写真下）

サロン・コンサートで歌う生平裕司さん（写真上）

お願い

会費未納の方は、同封の振替用紙で会費一、〇〇〇円を振込み願います。

昭和23年5月13日、自彊寮を解放して行われた“第1回土人踊り”。運動会で行われたのは翌24年が最初。中央で青龍刀を持って入るのが酋長の田村さん。右端の学生が吉田清志さん。

座談会出席者（敬称略）
田村　喜八（昭和22年卒・初代酋長）
竹原　由雄（昭和25年卒・幹部土人）
松橋　暉男（昭和25年卒・朗読担当）
及川　昭伍（昭和25年卒・生徒会リーダー）
白石源次郎（昭和41年卒／司会担当）
（他にオブザーバーとして応援団OB６名が参加）

校舎の連中が、みんなを引っ張るために運動会で何か覇気をみせてやりたいなと。そういう気概でやったのが発端なんです

及川　ちょうどその頃、私は生徒会の副委員長として全体を統括する裏方をやっておったんですけど、盛岡一高と盛岡二高と盛岡商業の3校が統合したのが昭和24年の4月1日。3校は通称、上田校舎（一高）、天神町校舎（白梅＝二高）、新小路校舎（盛商）と呼ばれていました。統合といっても校舎は別々で、運動会も別々に行うということだったんです。また、当時の学校は引揚者がいるわ、疎開の人がいるわ、予科練とか士官学校、幼年学校、軍隊に行った人が戻って入ってきているなど大変でした。50人が定員の教室に60人。クラスも入学したとき5組だったのが6組とぎゅうぎゅう詰めです。そんな中、3校統合の最初の運動会でもあるから、女学校の生徒もいっぱい来るだろうし面白いものをやろうじゃないかということでいろんな企画を考えた末、土人踊りが始まったということです。

原形は前年に自彊寮で完成

田村　実は“土人踊り”という名前じゃなかったんですが、統合の前にやったんですよ。それが第1回目。昭和23年5月13日です。

松橋　人数が少なかったから、自彊寮を開放してね。

田村　それを本格的にやったのが次の年ですが、寮でやったときはもう例の土人踊りの歌はありました。歌の出どころは、軍隊から戻ってきた用務員さんです。そのおっさんから教わったんです。

田村喜八さん（S22卒）

松橋　ジャワ、今のマレーシアですね。そこの嫁とり歌か、恋歌だったとか。意味は全然わかんなかったですが。

田村　軍隊にいたころ、現地の人が教えてくれた歌だということで、その歌を主題歌にして土人踊りが始まったんです。その歌に軽音楽部の小笠原というやつだったと思うんですが、ドンドンツクツクとリズムをつけ、吉田清志という同級生の絵描きが振りや扮装をデッサンしたんです。さらに松橋さんらが詩を創って、それを朗読したんです。

松橋　ええ、小平さんと私で詩を朗読しました。

白石　土人踊りは前の年に最初の小さな原形ができて、翌年、運動会で大々的にやったということですか。

松橋　盛岡中学から盛岡一高に学制が変わったときが最初だね。

田村　それまでは校庭がアメリカのパラシュート部隊に占領されてたんですよ。だから運動会もへったくれもないんです。ピストルやカービン銃を持ったアメリカ兵が盛岡中学の廊下を歩いてんだから。で、学校統合で校庭が開放されたでしょ。その途端にこれ、おっぱじめた。

松橋　校庭、使っていいということになってね。

卒業したら終りだと思った

田村　そうそう。で、その第1回“土人踊り”の演出は吉田清志、田村喜八ということになってますけど、応援団の部屋で、サボってるわけじゃないけど自由に出入りしていた連中が、面白くない、なんかやるかということで始まったんです。

白石　その“土人踊り”を仕切ったのは、田村先輩が団長をやってた応援団だったんですか。

田村　いやいや、当時は全然違います。全員がやったんです。

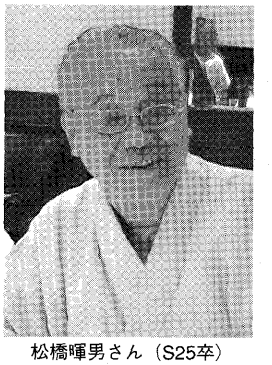
松橋　全員でやった。

田村　当時は応援団なんて組織はないですよ。

竹原　私も柔道できなくなっちゃって、やめて陸上にいたから。

雄さん（S25卒）

田村　何部でやるとかいう時代じゃないんです。だって先生だっておかしかった。教頭先生が東大出の水戸の勤王の浪士で藩士ですよ。彼がアメリカに復讐しろと、主な生徒を集めて随分説教するんです。一方じゃアメリカに服従しようという先生がいる。そういう混沌とした時代ですよ。我々のときは自由だ、平和だ、自主だ、民主主義だとか何とか言われてたんですけど、耳に入ってもピンとこなかった。そんな面白くない時代だったんですよ。その時におっぱじめた。



松橋暉男さん（S25卒）

松橋　竹原さんがおっしゃったとおりこんなに続くとは思わなかったですね。あれ1回きり。我々が卒業したら終わりのもんだと思っていました。

田村　それすら考えなかったですね。ただやろうと。伝統的な行事になるとは全然思わなかったです。

白石　そのときのパワーはすごいものがありましたね。

田村　朗読した詩が実によかったですね。ようするに、体に悲

しみをもっているんだけど、その悲しみをどこへ向けて行こうか、足どりをどこへ運んで行くのか、というような詩なんです。非常にうまい詩だったですよ。読み方も上手だった。

竹原　あれは良かったね。

松橋　踊りもそうだけど、引き際がおもしろかった。

白石　その演出は。

松橋　我々が相談してやったんです。野中隆彌さんも絵を描くし、吉田清志さんも絵を描くんでイメージがすぐ出るんです。

ヒントは「冒険だん吉」

田村　田河水泡の「冒険だん吉」という漫画があったのをご存知ですか？

白石　はい、ありましたよね。

田村　あれがすごいヒントになっているんです。それと用務員さんの話を聞いてね、なんとなくイメージが膨らんでいった。でも、あのときは土人踊りって言わなかったんじゃない？

竹原　いや土人踊りだったね。

及川　24年は土人踊りって言った。23年は土人踊りって言ったのかなあ。

及川昭伍さん（S25卒）

田村　土人踊りって言ったかどうかわからないけど、とにかく今考えてみると生徒のエネルギーってすごかったですよ。飯も食えねぇ時代ですよ。みな腹へってたんだからねぇ。ろくに飯も食えねぇ時代にね、よくあれだけのことをやった。

松橋　凄かったねー。

田村　私はそのあと卒業してから学校の教師をずっとやってたんだけど、今の生徒と比べれば、あの時のがきどもは凄いエネルギー持ってますよ。学徒動員というのはご存知ですか。

白石　はい。

田村　中学3年で、川崎とか、平塚とか松尾鉱山へ行って、焼け出されてきたんですよ。川崎では隣の工場にいた岩手師範の生徒が爆弾攻撃で8人死んだ。我々は幸いにして誰も死ななかった。で、飲まず食わずで川崎から自力で帰ってきた。

松橋　我々の1級下は線路工夫をやった。そういうことがあってすぐの時代でしょ。

白石　参加者は運動部が中心ですか。

田村　いや、希望者。おめ、やれ。やんねぇか。うんだ。OK。じゃ、って感じ。自由ですからね。民主主義だから。

司会・白石源次郎さん

竹原　人数は、確か50名ずつだったと。

田村　いや、そんなにいねぇ。

松橋　第1回目はね。

田村　20人。あとは太鼓叩いたり、理科研究部が電気をショートさせてバッと火がつくのを作ったり。だから従事した人間は何十人かいると思うんだけど。

竹原　絵画部、弁論部、実学…。

田村　いや、なに部ということじゃなくてやった。

白石　どういうシナリオだったんですかね。

田村　入場してくるでしょ、ドン、ドンドコドコドコ、ドンと。その足の運び方の訓練もしたですよ。

白石　酋長は田村先輩ですね。

田村　23年と24年の2回、酋長をやったと思うんだけど。

竹原　俺は24年に酋長の息子をやりました。

混乱と荒廃の悲しみをバネに

白石　田村先輩は23年に酋長やった時は何年生だったんですか。

松橋　高校3年です。

及川　そう。私と松橋くん、竹原くんの3人は一緒で、昭和19年に盛岡中学に入学して中学4年までいったんです。昭和22年でその盛岡中学がなくなって、23年に盛岡一高2年に編入になりました。田村先輩は名簿では22年旧制中学卒となってますが、23年に盛岡一高3年に編入したということですよね。

松橋　当時は旧制中学で卒業した人もおれば、私たちの一級下では新制中学3年で修了とか、旧制中学4年修了、旧制中学5年卒業という人もいた。で、5年ないと卒業じゃないけど、高校に変わった人もいれば、やめた人もいる。もう、無茶苦茶だったんですよ。

田村　私の1級上で軍隊に行った人ですが、学生服じゃなく海軍の軍服で来ていた人もいました。まぁ、そんな時代だから学年は何年でもいいですよ（一同大笑い）。ただ、そういう雰囲気の時代に何かやろうということになってね。その時の詩がすべてを物語っていますよ。

白石　そうすると土人踊りはまず、歌と太鼓があって、そこに詩も入れようということになったわけですか。

田村　いや、それは弁論部の松橋さんらが、行進のときの詩をつくろうよ、って協力してくれたんですよ。

白石　行進の時の詩ですか？

田村　ドンドコ、ドンドコ行進する合い間に、「この悲しい足どりをどこにもって行こうか。今宵も人々はありん」とかなんとか詩をいれて…。

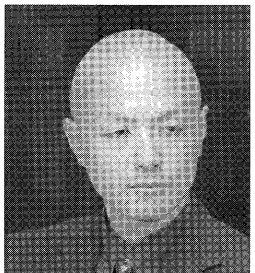
白石　詩は行進しながら会場に入るときに朗読したんですか？

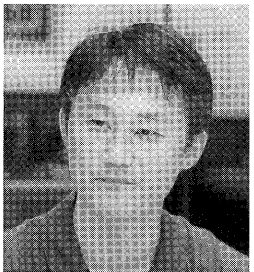
松橋　みんなが行進し隊列が整うまで、ずーっとやったわけ。

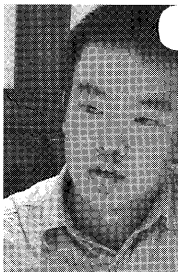
田村　そう。行進する間。あの

（※以下、4面の下に続く）

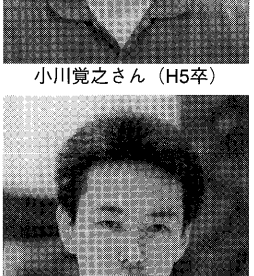
オブザーバーとして参加していただいた応援団若手OBの皆さん


及川　謙さん（S61卒）


小川覚之さん（H5卒）


吉田　伸さん（H

久保田史郎さん（H12卒）


森田典治さん（H12卒）

我妻元明さん（H

35周年記念誌原稿およびゴルフ大会参加者大募集

35周年記念誌原稿募集

「旧況・近況・現況」
―会員ひとこと集―

在京白堊会創立35周年を迎えるにあたり、『在京白堊会35年の歩み』を来春発刊する運びとなりました。つきましては、本書「旧況・近況・現況 ―会員ひとこと集―」欄に掲載する原稿を会員の皆様方に広く募集致します。次の要領に従いふるってご応募下さい。多数の会員の方々の投稿をお待ちしております。

●**掲載欄**　旧況・近況・現況―会員ひとこと集―

●**内容**　母校の思い出、クラブ活動のこと、交友録、在京白堊会との関わりなど自由。

●**本文字数**　約250字（様式・用紙自由）

●**投稿要領**　原稿本文に、①氏名②卒業年次③職業（元・前・現職問わず任意に一つ）④顔写真⑤連絡先住所・電話番号を明記した表書きを添付し事務局宛送付すること。

なお、電子メールによる投稿も歓迎（写真はメール・郵送いずれも可）。但し、ファクシミリは不可。

●**締め切り**　平成15年**11月30日**

●**お断り**　投稿された原稿については、編集委員会の責任において字句の修正、内容の訂正等最小の範囲で行う場合があります。あらかじめご了承下さい。

●**送付先**　在京白堊会事務局　〒101-0025　千代田区神田佐久間町1-11　産報出版株式会社内　TEL/FAX 03-3254-9301　電子メール：baba@sanpo-pub.co.jp

ゴルフ大会参加者募集

第一回在京白堊会ゴルフ大会「開催要領」

●**期日**　平成15年11月21日（金）

●**会場**　ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎（茨城県竜ヶ崎市泉町原口1592-77　TEL.0297-64-0110

●**スタート**　OUT・IN共9時36分から各6組

●**集合時間**　8時45分（厳守）

●**募集定員**　48名

●**会費**　4千円（パーティー費、賞品代ほか）

●**プレー費**　プレー費＋昼食代（概算1万4千円）は各自ご精算下さい。

●**送迎バス**　東京駅～会場間の往復送迎バス（有料）を用意してあります。東京駅八重洲日本橋口7時30分発。料金2千円（往復）。

●**申込み**　個人、チーム自由。但し、卒業年次単位1チーム4名の一括申込みを歓迎します。

●**申込方法**　①氏名②連絡先住所③電話番号④卒業年次⑤チームの場合は代表者名⑥送迎バスの利用の有無、を明記し（書式自由）事務局宛申し込む。

●**申込締切**　平成15年**10月27日**（月）。但し、先着順。定員に達し次第締め切り。

●**プレー**　18ホールズストロークプレー。ハンディはダブルペリア方式で算出。同ネットは卒業年次上位。

●**対抗戦**　卒業年次別対抗戦を行います。1チーム4名中上位3名の合計スコアで順位決定。

●**表彰**　年次対抗戦団体優勝、個人戦優勝ほか賞品多数。

●**実施要領**　参加者には後日詳細な実施要領を送付します。

●**申込先**　在京白堊会事務局　101-0025千代田区神田佐久間町1-11、産報出版株式会社内、TEL/FAX.03-3254-9301（直通）

お詫びと訂正

前回第14号の「HP管理人座談会特集」で、第2面3段目7～8行目「昭和26年卒神山眞澄先輩」は「昭和**27**年卒**加美山春美**先輩」。第3面写真在京白堊55会管理人「加藤裕一さん」は「**加藤真**さん」の誤りでした。大変ご迷惑をおかけいたしました。慎んでお詫びし訂正いたします。

（※←中面からの対談の続き）

詩の朗読には感動したですよ。そして、真ん中でサークルを作り、みんなあぐらかいて座って、詩が終わる。そうすると酋長が踊りを踊るんです。

竹原　それで呪文が入るのね。

田村　呪文じゃない。先生の悪口なんだ。たとえばとっちゃんボーイ…。みな先生の悪口でした。先生方は気が付かないで喜んでたけど。（一同大笑い）

白石　それは僕らもそうでした。

松橋　そうなんですよ。みんなでもでたらめだったから。踊りだってでたらめですからね（笑）。ドン、ドコドコドコ、ドンと進んで行く行進だって、自分たちで勝手に考えたリズムと足どりですからね。

田村　でも、詩に込められた気持ちだけは本物だった。あの詩はどこかに残っていないのかな。

松橋　どこかにあるはずです。探してるんだけど。私と野中隆彌さんが白堊で最初に発行した茶色の本がある。それには載せてあるはずです。

時代の変化はあっても継続を

白石　高校制になって、なぜかその〝土人踊り〟は今も伝統行事として続いているわけですけれど、一方では人種差別だと岩手日報などで叩かれ、今は〝猛者踊り〟と名前を変え、体の色も黒や茶でなく赤や青に塗りかえて続いています。最後にこの点についてひと言お願いします。

松橋　早い話が、赤鬼、青鬼になってしまったわけだ。こりゃ、〝鬼踊り〟にしたほうがよかったんじゃないか。

田村　いいんじゃないですか。我々は終戦で打ちひしがれ、行き場のない青春のエネルギーを発散させただけで、継続するなんて考えてもいなかったですが、せっかく名物になったんだから「天下の盛岡一高ここにあり」と、おおいに続けたらいいと思います。

竹原　いいものだから続いたんでしょうね。でも、時代によって解釈も違って来るでしょうから、新しいものを作ってもいいかも知れませんね。

白石　今日は長い間のなぞだった〝土人踊り〟のルーツと背景をお伺いすることができました。どうもありがとうございました。

〈座談会後記〉　応援団の今昔の話題や、若手の意見・感想など話題は尽きませんでした。別の機会に、あらためて紹介できればと思います。（構成／42年卒 山田）

「運動会の伝統行事〝土人踊り〟創始者を囲んで」の座談会風景。応援団の学生OBなど若手も話を聞きたいと駆け付けた。